



導入の意向無し ～都市計画税～

「今だけ自分だけの政治に決別を」「安定財源の確保」「更なる開成町の価値の向上」を訴えて都市計画税の導入を提言するも、町から前向きな答弁は無し。

都市計画税を導入すべきとした、私の一般質問に対して、町の当初答弁は以下のようなものでした。

『町の将来の礎となる3つの都市計画事業は、単なるインフラの整備ではなく、開成町を活力ある街並みにして次世代に引き継ぐための、「未来への投資」である。

開成町財政計画を毎年策定しているが、これら3つの事業は財政の健全性を保つたうえで実施できると判断している。

都市計画税の導入は財源確保策の一つではあるが、現時点で町民の皆様追加負担をお願いする状況ではない。』

都市計画税導入が妥当な理由

私は再質問で以下のような点を挙げて、自主財源確保の必要性を改めて訴えました。

① 減税や負担先送りのツケは、すべて次世代に回る。開成町は子育て世代が多い町だからこそ、「次世代にツケを回さない責任ある負担」を今、議論して「今だけ・自分

だけ」の政治への決別すべきだ。

② 原油高、ナフサの不足・価格高騰で、法人税については、再び減収も考えられる。

③ アメリカの政策金利が引き上げに転じる、日本の政策金利も追随することで、町債費の負担も増加する。

④ 消費税の22%は地方に回る。食料品の消費減税が実際に行われた場合、不足する財源の補填が不透明。

⑤ 税金が高いことは決して不幸ではない。幸福度調査で1位のフィンランド、2位のデンマークは国民負担率が60%前後、3位のアイスランドは付加価値税が24.5%だ。

⑥ 令和1～5年の転入者の74.21%が都市計画税を支払っているところからの転入であり、こうした人にとっては、都市計画税は抵抗がない。

この他にもいくつかあげました。しかし、現状は追加負担をお願いする必要はないということの説明を重ねる答弁でした。

「財源の問題」が度々出てきた午前の答弁

都市計画税が直接投入される3つの開発事業に関しては、財源の不安がないのかもしれませんが、午前中の同僚議員の一般質問に対する答弁では、「財源が・・・」という言葉が何度も出てきました。

財源の問題で実施できないなら他の財源の確保策は考えるべきだと思います。

湯河原町や箱根町は温泉があるので、入湯税や宿泊税という法定外目的税を設定できます。しかし開成町にはそうした税は望むべくもありません。

そこで可能なのは都市計画税であり、町の試算では0.1%でも7千万円になるとのこと。

それだけあればできることは増えます。

今後も考える余地はあると思います。



望まれる担当課の人員強化 ～高齢者医療～

6月19日金曜日は「高齢者の健康をサポートする町の体制を問う」として一般質問に登壇しました。

後期高齢者の健診受診率向上やアドバンス・ケア・プランニングの普及策、それらを実行する職員の体制の3点を確認しました。低受診率対策としては、受診票を2年前からはがきサイズにしているとのこと。

また、今年は集団検診を実施し、がん検診までそこで同日にやってみるとのことです。

「アドバンス・ケア・プランニング（A・C・P）」の普及策に関しては、もう少し具体的な政策が欲しかったと思います。

第9期「高齢者保健福祉計画・介護保険事業

計画」には「A・C・Pについて普及啓発を図り」とありますが、町の答弁は個人が行うものという主旨でした。

最後はこうした、高齢者の健康を守る職員の体制についても確認しました。

「令和5年度全国保健師長会南関東・東京ブロック研修会」で、当時の開成町子育て健康課が発表した資料を見つけました。

そのR5年度、開成町役場には8名の保健師が居たものの、介護福祉課は1名の配置で、6名は当時の子育て健康課の配属でした。今回の質問でも、当初答弁では、近隣の他市町より多くの専門職を採用しているとのことでしたが、再質問した結果、現在も介

護福祉課所属の保健師は1名体制です。

（会計年度任用職員は除く）

R2年の国勢調査の結果から、14歳以下の年少人口は14.8%、それに対して65歳以上の高齢人口は26.1%です。その比率からいっても、介護福祉課にもう一人程度の保健師の配置があってもいいと思います。

実際の質問時にその人口比率のデータに基づく再配置の質問ができなかったのは反省点です。

各自治体には個別の課題の他に、上郡5町に係る課題や協働の事業などがあります。
今月からシリーズでそうした課題にスポットを当てます。初回はゴミ処理に関する問題です。



6月5日に、山北町議会の富田 陽子議員が企画された「ゴミスタディツアー第1弾 燃えるゴミ・燃えないゴミの行方を追う」に参加し、足柄西部環境センター（可燃ごみ処理施設）を見学してきました。
足柄地域1市5町では2029年度から、可燃ゴミを広域で処理するため、現在、南足柄市清掃工場がある場所に新たな可燃ゴミ焼却施設の建設に入っています。
一昨年暮れに、南足柄市、山北町、開成町の3か所で「新可燃ごみ処理施設建設に係る生活環境影響調査結果説明会」が開催さ

れ、私は3か所全てに参加しました。
開成町だけ一般住民の参加者がゼロで、議員5名だけの参加でした。この関心の低さが気になっていましたが、今回の第1回ゴミスタディには開成町からも参加がありました。富田議員は新施設のことも大事だけど現在のゴミがどうなっているか知ること大切との思いで企画されました。

同じ施設で処理しても異なる分別方法
見学して驚いたのが、開成町と山北町で「可燃ごみ」の範囲が異なる点です。
開成ではアルミ缶は月2回、分別回収しており、選別・圧縮された後、民間業者に売却、町の収入となります。山北町は不燃ゴミとして纏めて出しています。そのほうが面倒がないように思いますが、集めた後で人力で選別作業を行っています。結果それはコスト＝税負担として跳ね返ります。
ではなぜ分別の仕方が異なるかといえば、立地の違いです。
開成町は平坦で遠くても数百メートルでゴミステーションがあります。山北町では、

もっと長い距離の坂道を登ったところまで持っていかなければならない地区も存在し、分別を細かくすると不法投棄などを誘発しかねないという事情があるようです。
既に一緒にやっている開成町と山北町でさえ差があります。それが1市5町一緒になるともっと様々な違いがあり、これから詰めていかないといけないところもあります。
担当課にも確認しましたが、無理やり統一するのではなく、一緒にやれるものを共同で処理し、その他は別に考えるという方向です。こうした視点を持ったうえで議会として、今後の推移を注視したいと思います。

スプレー缶は使い切って！

以前、スプレー缶は中身を出し切った後に穴をあけて出していました。今は穴あけはしていません。爆発事故などが相次いだので、穴あけ不要になりました。しかしこれも処理施設で開けてました。
ただ中のガスが残っていると、それを出す手間もかかるので、ガスを出し切ってから捨てることをお願いしたいとのことでした。

6月は他の議会傍聴月間 MVPはつなしま議員

あじさい祭りと、日曜議会があるため、開成町議会は6月定例会の開催が他の自治体よりかなり後ろ倒しになります。
そのため議会日程が重ならず、多くの近隣の議会に傍聴に行くことができます。
今年は2市3町に傍聴に出かけました。
いつどこに行ったかは、右の表を見ていただけるとわかります。
大井町議会は今回初めて傍聴しました。
議場がとても立派で、『あの企業がある時の税収で建てたのかな？』と勝手に考えています。
南足柄市議のつなしまあさみ市議の一般質問は、いつも素晴らしいと思っていますが、今回も個人的にはMVPだと思います。
質問の流れに淀みがなく、話し方、表情が

常に柔和で聞きやすいのです。
行政側からの質問に対する答弁内容が肯定的であっても、否定的であっても、間を置かず、それならと次の質問に入ります。
どんな答弁が来てもいいように、相当にシミュレーションを重ねていると察します。
また、答弁の方向性が自身の思いと全く異なることもあると思いますが、それを気づかせないくらい、常に穏やかな口調です。
これは相当に精神を安定させていないとできないと思います。
私は昔の社会党の衆議院議員 大出 俊 氏の国会質問を見て、かっこいいと思っていました。つなしま議員とは、かなりスタイルが異なります。しかし、現代では、つなしまさんの対話スタイルが合っています。

6月の主な日程

1日	開成小学校模擬議会
2日	中井町議会傍聴/松田町議会傍聴
3日	松田町議会傍聴
5日	ゴミスタディツアー参加
6日	あじさい祭り開会式
10日	大井町議会傍聴
11日	議会運営委員会
12日	あじさい祭り案内ボランティア
15日	広報分科会/担当課ヒアリング
16日	南足柄市議会傍聴
17日	南足柄市議会傍聴
18日	小田原市議会傍聴
19日	6月定例会（一般質問）
21日	6月定例会（一般質問）※日曜議会
23日	議会全員協議会
24日	広報分科会
29日	特別市に関する詳細説明

